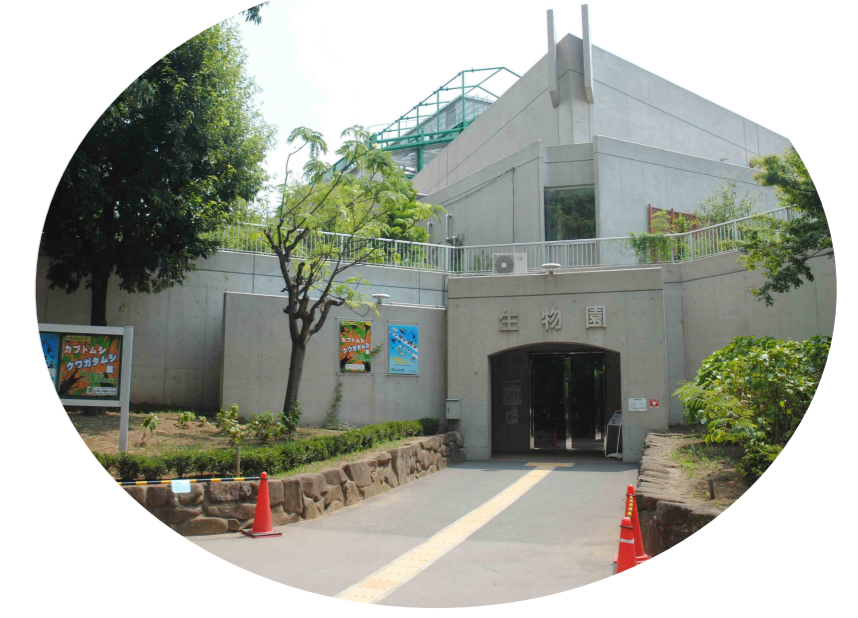


はじめに

足立区生物園のある足立区は海に隣接しておらず、地元の子どもたちは海や海の生きものと触れ合う機会が少ない。一方、生きものに直接触れる解剖観察は、生きものに対するより深い興味を引き出すことができると考える。本研究では、食用になる身近な魚類だけではなく、サメ類や深海魚類を材料に用いて魚類間の比較を行い、体のつくりと環境適応への理解につなげたい。



方法と結果

【日時】平成28年8月21日(日) 13:30-15:30

【対象】小学校4~6年生20名(事前募集で抽選を行う)
2人1組で解剖、1人スタッフがつく

【材料】各魚類グループの魚



浅海性軟骨魚類
・ドチザメ2
・ホシザメ2
・ネコザメ1



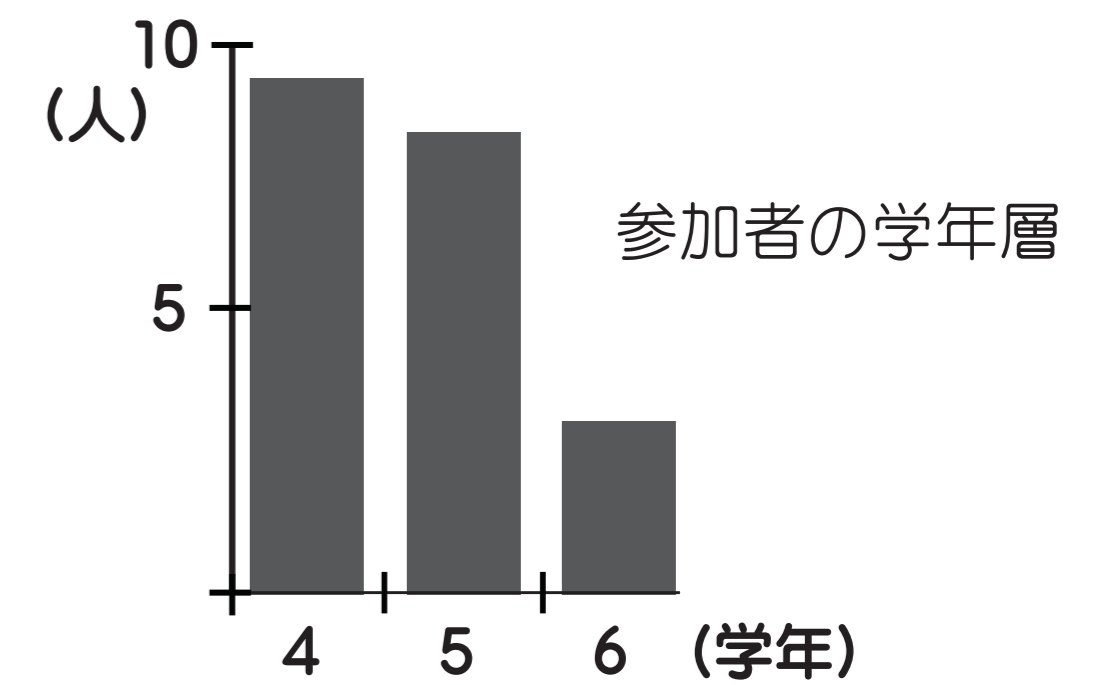
深海性軟骨魚類
・ヘラツノザメ5



浅海性硬骨魚類
・アジ4
・サンマ1



深海性硬骨魚類
・トウジン5



【流れ】

イメージ調査1

魚クイズ (10分)

- ・魚の仲間
- ・魚の暮らす環境
- 魚への興味関心を引き出す

外部形態の観察 (50分)

- ・鰭、鰓、鱗などの観察
- ・サメ皮標本づくり
- 魚のイメージと実物の確認(鰭、鰓、鱗、歯、触感など)
- 触る機会のない魚に慣れる

イメージ調査2

内部形態の観察 (50分)

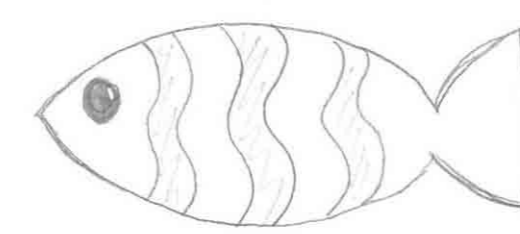
- ・内臓、骨などの観察
- ・胃内容物の観察
- 体の構造を見る解剖観察に興味を持つ
- 複数種の比較観察ができる
- 体構造と暮らす環境との関係に気づく

イメージ調査3

それぞれの魚の特徴やイメージを書いてみよう! 学年 年 大人

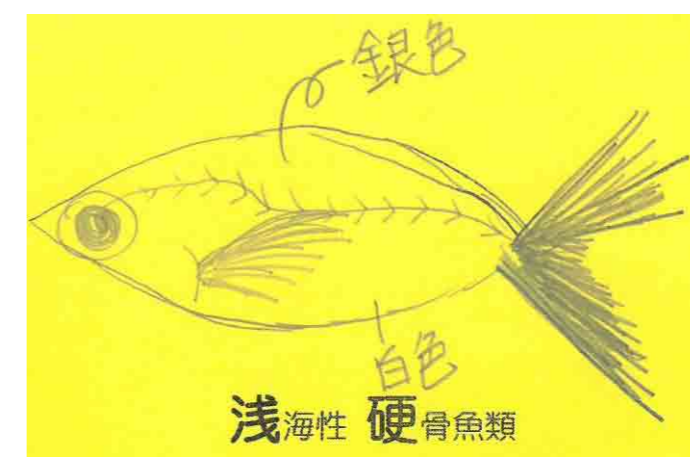
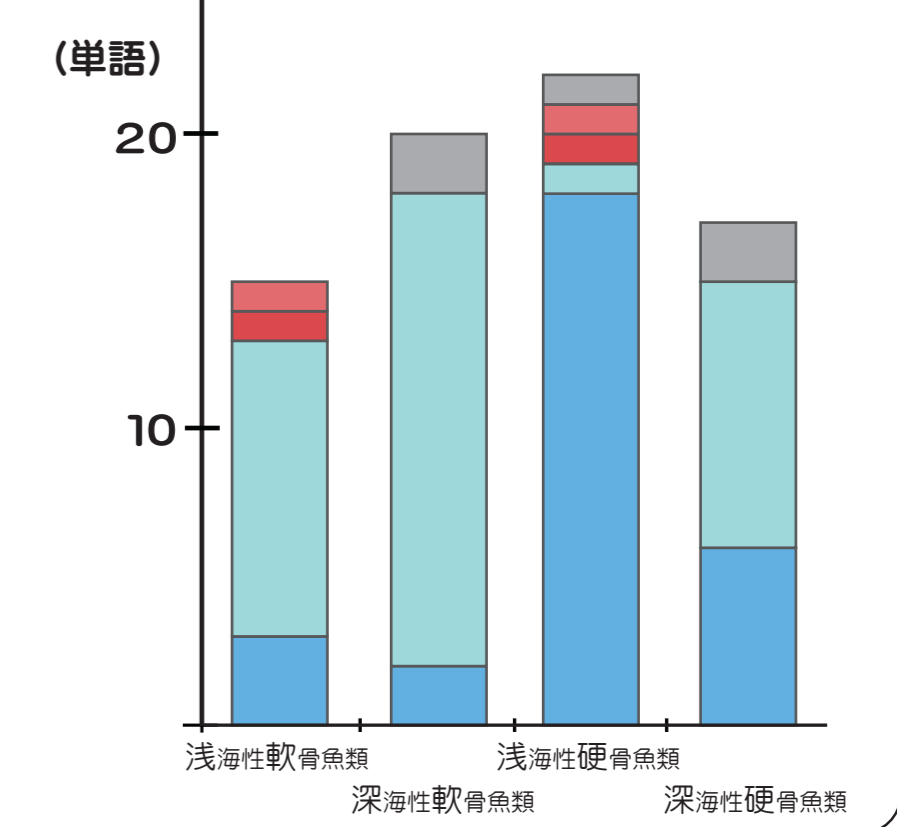
浅海性 軟骨魚類	浅海性 硬骨魚類
深海性 軟骨魚類	深海性 硬骨魚類

イメージ調査
各魚類グループについて思いつく言葉を記入



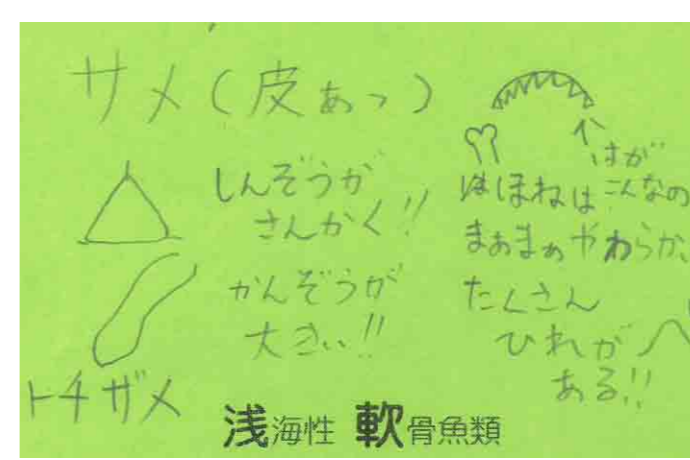
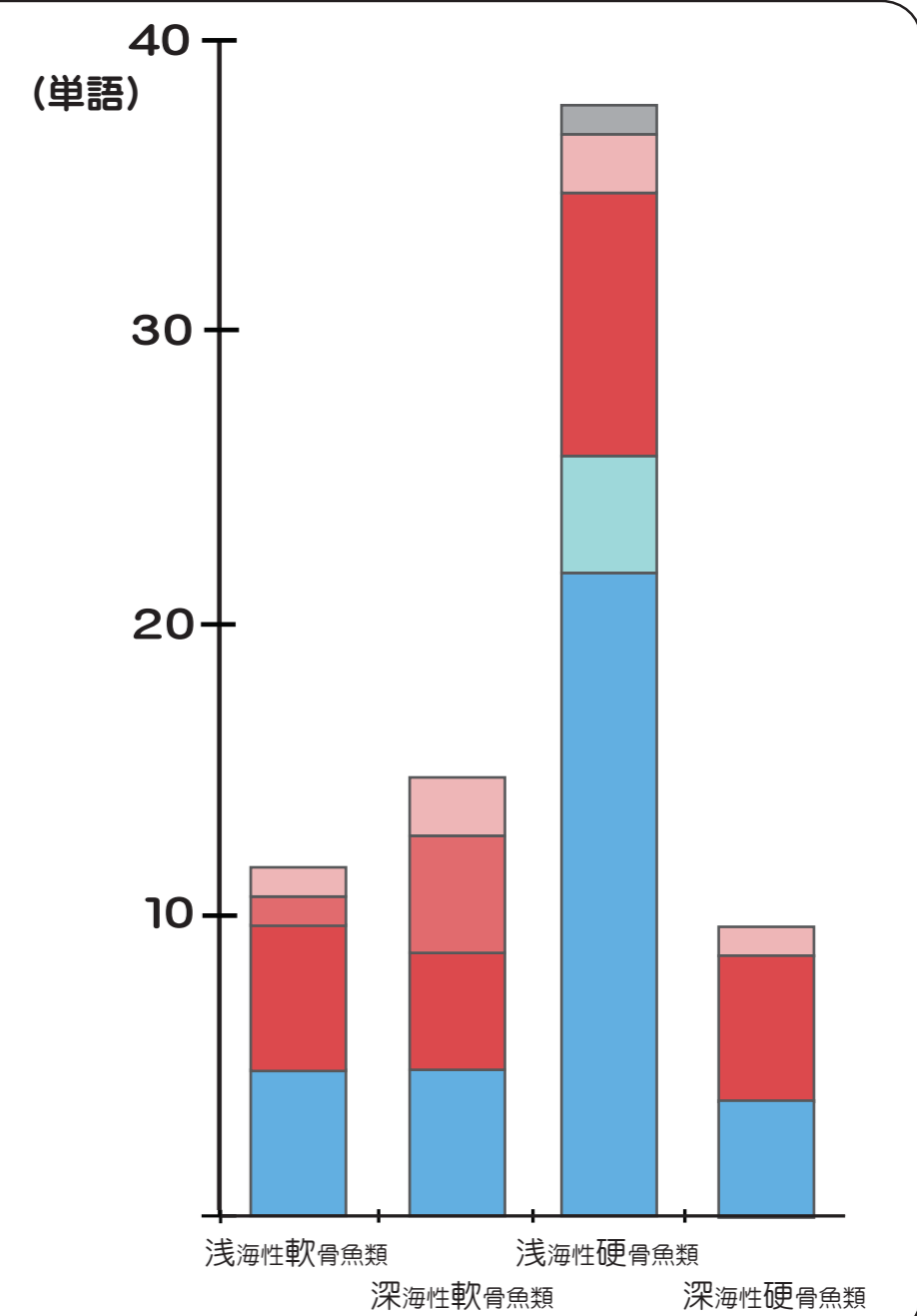
浅海性 硬骨魚類

- ・ほとんど魚種の名前
- ・発光する
- ・色が鮮やか



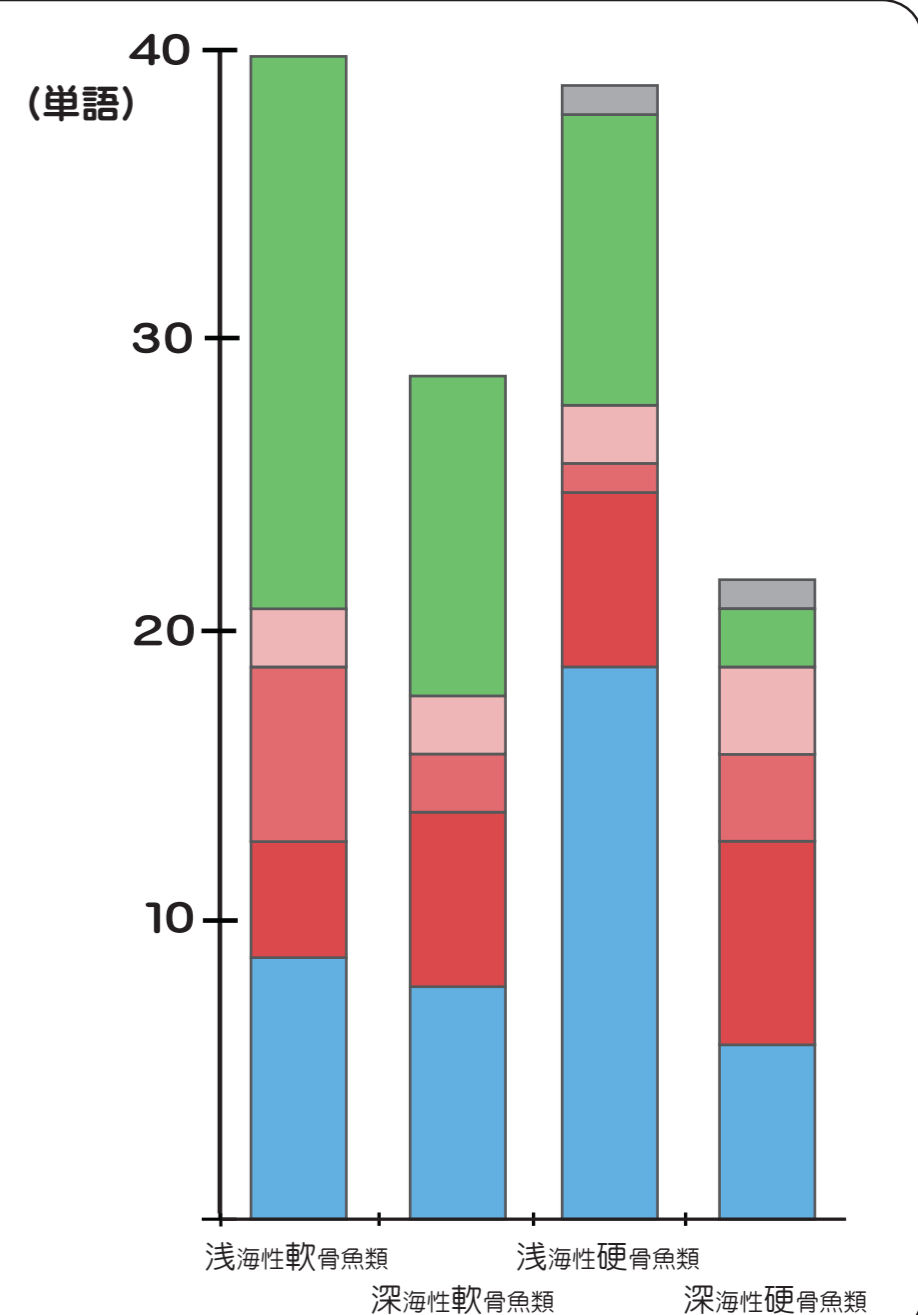
浅海性 硬骨魚類

- ・体がまがる
- ・目玉がでかい
- ・くさい
- ・ざらざらしている



浅海性 軟骨魚類

- ・骨があった
- ・カニを食べたかも
- ・浅いサメより内臓が少なかった



- ・記入された単語数が増えた。イメージが多様化した。
- ・知識(魚種の名前)から、実際に見たもの、考えたことの単語へ変わった。
- ・軟骨魚類と硬骨魚類、深海魚と浅海魚との比較観察ができている。



考察

解剖を通して、魚類の体のつくりに興味をもたせることができました。しかし、実際に見たものから「暮らす環境との関係」を考察する段階まで達することはできなかった。今後も海が近くにならない子どもたちへ、海やそこに暮らす生きものに興味を持つきっかけとなるようなプログラムを続けていきたい。さらに、実際の海へ連れて行くようなプログラムの開発を試みたい。